

諸外国国立公文書館の参考事例

平成28年9月29日(木)
展示・学習等WG(第1回)参考資料3※「国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査報告書」
(平成26年度内閣府委託調査)を参考に事務局において作成。

展示①：展示の構成、テーマ

アメリカ国立公文書記録管理院 (NARA)

ワシントンD.Cの本館には、3つの常設展示と1つの企画展示が置かれている。

常設展示1) 象徴的な文書の展示

アメリカの歴史における象徴的な文書として、独立宣言、合衆国憲法、権利章典が展示されている。また、展示ケースの上部には、独立宣言、合衆国憲法が誕生するシーンを想像して描かれて壁画である「フォークナーの壁画」が置かれている。

常設展示2) 記録を通じて民主主義の根源を体験的に
感じさせることを目指した展示

NARAの書庫をイメージした部屋で、デジタル技術を活用してインタラクティブな展示を見せることにより、アメリカの民主主義を根源を感じさせるような体験を届けることを目的としている。

歴史上の出来事や著名人に関わる資料のほか、一般の人々の家系情報、南北戦争におけるアメリカ系アフリカ人の記録などの歴史の裏側を感じさせるような記録も扱う。また、NARA自体の存在意義を示すためのテーマも設けられており、NARAで利用者が体験できること等を紹介している。

常設展示3) 「権利の記憶」に関する
展示

アメリカの国家が守り続けてきた権利の記憶について、3つのテーマ(アフリカ系アメリカ人による権利の戦い、男女同権の戦い、移民の歓迎と排斥)で展示を展開している。入口付近には、象徴的に、マグナカルタが展示されている。



企画展示) 多様なテーマを扱う展示

NARAが保有する膨大な資料を活用した多様な展示が企画される。
NARAでの展示を終えると、全国各地の博物館を順次巡回していく。

展示①：展示の構成、テーマ

イギリス国立公文書館（TNA）

常設展示室を使って展示が行われているが、一部は定期的に更新されている。

常設展示のテーマ構成（一部）

- **“Power and the People ”（権力と民衆）：**
政府の政策と民衆の関わりをテーマとした展示。 奴隷制度、税金、植民地、選挙等の資料を紹介している。
- **“ Discovery Corner ”（発見のコーナー）：**
古文書に関わる事柄をテーマとした展示。 貴重な文書に付けられている印や古文書の保存方法について紹介している。
- **“ Types of Records ”（記録の種類）：**
記録媒体の変遷に関する展示。パピルス、骨片、木片、巻物、羊皮紙、そしてデジタルへと、記録媒体が人類の文明とともに変化してきた歩みを紹介している。
- **“Who do you think you are? ”（あなたは何者か）：**
家計調査をテーマとした展示。 国勢調査の資料やアーキビストの支援等により、自分の生年月日から、18世紀もしくはそれ以前の先祖の情報にたどり着けることを紹介している。
- **“ More than Words ”（単なる言葉にとどまらず）：**
公文書の重要性をテーマとした展示。 イギリスや世界の歴史における重要な書類を解説している。

展示①：展示の構成、テーマ

フランス国立公文書館

展示活動はパリ館、ピエールフィット館の2館で行われており、それぞれの来館者層を意識したテーマ選定が行われている。このうちパリ館では、皇帝室、常設展示室、企画展示室といった空間活用した展示活動が行われている。

常設展示 1) 一定のテーマで資料の入れ替えを行う展示

施設に入って正面の展示室では、「110の資料に見る国立公文書館」というテーマの展示が行われている。展示される資料は3か月ごとに更新されるが、テーマは変わらない。



常設展示 2) 1人の人物に関わる資料の展示

皇帝室（グラン・デポ）では、ナポレオン1世にまつわる資料を展示している。2013年からは、国立公文書館の初期の頃の書庫を再現し、その当時の雰囲気味わえる空間演出が行われている。



企画展示) 多様なテーマを扱う展示

3か月半～半年ごとに展示テーマを変えて実施されている。



展示②：展示手法

アメリカ国立公文書記録管理院（NARA）

デジタル技術を活用したインタラクティブな展示

テーブル上のタッチスクリーンで、アメリカの歴史の中における市民権、言論の自由、選挙権、機会均等といった問題に関する議論を体感することができる。

利用者は、関心のあるトピックを選択し、そのトピックに関する様々な資料の画像、解説を閲覧し、それらに関する自分の考えや感想を資料に加えたり、自分の考えや感想を付加した資料をさらに他の利用者に発信・共有したりすることができる。



イギリス国立公文書館（TNA）

利用者の興味に応じて詳細を学べる展示

資料をデジタル画像で見せることのできるタッチモニター式のビューワーが展示室に設置されており、利用者は資料の詳細や解説などの付加的な情報を見ることができる。

この他、展示ケース周辺に掲載されたQRコードを利用者が手持ちのスマートフォン等で読み込むことで、資料のより詳細は解説を閲覧することができるシステムが導入されている。



フランス国立公文書館

文書資料を補完する展示

文書資料の情報を補完するため、博物館等の他の関連施設や個人等から資料を借用し、展示している。

また、文書が作成された時代について年表を組み合わせるなどの工夫も行われている。



アメリカ国立公文書記録管理院（NARA）

教育・学習活動を実施するための施設（ラーニング・ラボ）が置かれており、収蔵資料を活用した教育が行われている。

例1) カテゴリー毎に分類された資料を活用したワークショップ

科学、数学、歴史等のカテゴリーで分類された所蔵資料の画像コピーが入った箱があらかじめ教室に準備されており、教員等がこれらを活用してワークショップや資料の説明を行う。

部屋は一度に40人程度が利用可能で、椅子、机、モニター、資料のコピーを置くための大きな台等が用意されている。



例2) アーキビストの仕事を経験的に学べるプログラム

合衆国憲法やアーキビストの仕事について学ぶためのプログラム。参加者は「大統領の選挙キャンペーンの手伝い」などの与えられた架空の設定の下、関連資料を活用しつつ、課題解決のためにアーキビストやリサーチャーとして調査を行う。

予約制の無料一度に40名程度が利用可能。所要時間2時間程度で、週2回実施。



イギリス国立公文書館

5歳以上の様々なターゲット層を対象として、講演会、ワークショップ、ビデオ授業、バーチャル教室といった様々なプログラムを展開している。プログラムでは、歴史上の出来事に公文書が関わっていることを伝え、記録について考えさせたり理解させたりすることを重視している。

例1) 双方向性を重視した少人数向けプログラム

スマートボード、タブレット端末、視聴覚機器等を活用した双方向のプログラム。質疑を行いながら講義を進める形式で所蔵資料を紹介することで、学生の理解を深め、分析力を高めることを目指している。

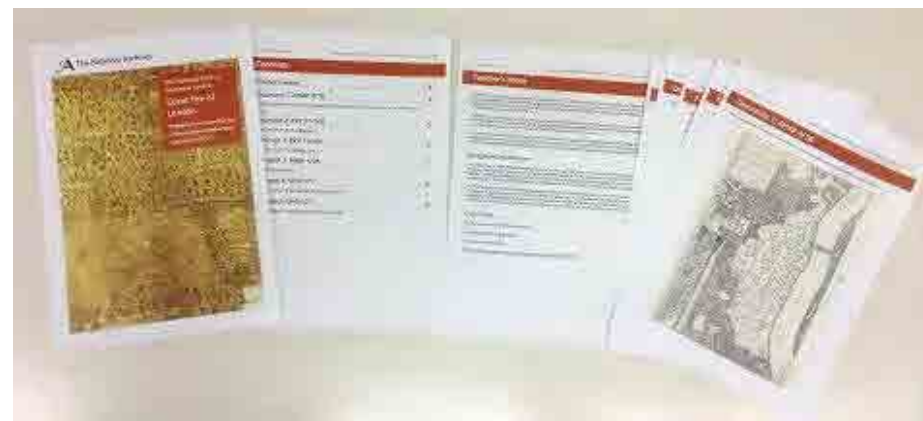
5～8名程度の学生グループを対象にしている。



例2) 遠隔地から参加できるプログラム

学生にあらかじめ書類、教員用の副教材をセットで送付し、学校側と繋いでディスカッションやディベートを行う。学生は、国立公文書館の担当者への質問や相互のアイデアの共有を行うことができる。

学校側には、カメラ、マイクなどの機材の準備が必要となる。



フランス国立公文書館

幼稚園児から大学生までを対象に様々なプログラムが用意されており、参加者は各プログラムのテーマに沿って、文書の原本を基に歴史を学ぶことができる。

例) 時代背景の理解も深められるよう工夫されたプログラム

50以上のワークショップが用意されており、本物の羊皮紙やアシの筆や羽ペン、天然の顔料を使って作業することで、所蔵文書が作成された時代についても理解を深められるようにするなどの工夫が行われている。5～8名程度の学生グループを対象にしている。

ワークショップ専用の部屋は、パリ館に2部屋、ピエールフィット館に6部屋設けられている。パリ館では、移動の動線を考慮して展示室のすぐ隣に置かれている。

イタリア国立中央文書館

小学生から大学生まで幅広い対象者に向けて、館内を案内する無料のガイドツアーを実施しているほか、児童向けの学習プログラムにも力を入れている。

例) 経験的に理解を深められるよう工夫されたプログラム

児童向けの学習プログラムでは、例えば、出生証書の抄本やワクチン接種の証明書など経験的に理解できるところから公文書の話始めることで、理解を促している。

プログラムは、館内で実施することもあれば、学校へ出向いて行うこともある。